

# 百寿と50周年のお祝い

千歳ロータリークラブ（喜多康裕会長）は2月9日に千歳市のANAクラウンプラザホテル千歳で開いた通常例会で、今年で100歳を迎えられた丹治秀一パスト会長の「百寿」と「ロータリー歴50周年」をお祝いしました。

丹治パスト会長は1923年（大正12年）2月6日生まれ。現在は木材チップ素材製材生産販売「丹治秀工業」の会長と千歳分収造林組合の顧問を務めています。当クラブ入会は1972年9月で、84～85年には会長を務め、今年度50周年の節目を迎えられました。



これまで当クラブの継続事業である分収造林事業の立ち上げと運営にご尽力をいただきました。分収造林事業は当クラブが行っている事業のうちでも大きな存在です。千歳市の支笏洞爺国立公園内の国有林の一部分を収造林として長期間、管理運営するものです。

1991年からの80年契約の事業で、場所は千歳ふ化場の上流部に位置する千歳川第4発電所付近の千歳市蘭越地区。92年5月にアカエゾマツ苗木7300本を植栽し、その後、さらに約500本増やしました。名称は「千歳ロータリーの森林（もり）」。草刈りや間伐などの手入れ作業を定期的に続けており、丹治会長はその中心を担われてきました。

通常例会では、喜多会長は「分収造林は北海道、日本のロータリーの事業の中でも有名。模範として少しでも近づけるよう頑張っていきたい。健康にご留意され、引き続きご指導ご協力をお願いしたい」とお祝いの言葉を述べました。福田武男パストガバナーは「ロータリアンとしては50年が一つの目標。精神的なサポートをいただいた」、武石忠俊パスト会長は「分収造林で一生懸命頑張っていたいただいた。長生きして記録をつくってください」と祝福しました。

当クラブからの記念品として、オリジナルの「ロータリー徽章」「ロータリーバッジ」をプレゼントさせていただきました。

丹治パスト会長からはお礼として、長寿を象徴するタンチョウの木彫りを各会員に頂戴しました。丹治パスト会長は「私のために時間を割いていただき、立派な記念品を頂戴し、長生きできたことは国際ロータリー千歳ロータリークラブの皆さんのおかげ」と感謝。分収造林に触れ「皆さんの手であそこまで育てていただき、一生懸命手入れしていただいているご恩は感謝とお礼を申し上げる。少しでも長生きをして国際ロータリー、千歳ロータリークラブのためにお力になることをお約束する」と力強く話されました。

丹治パスト会長は百寿を祝う桃色のちゃんちゃんこを着て、会員と記念撮影。ますますお元気なその姿に会員も元気をいただきました。

